

わーと叫んだ者もあるよ
うでした。「どこまで人
をばかにするんだ。よし
見ている。インドのトラ
狩りをひいてやるから」
ゴーシュはすっかり落ち
ついて舞台のまん中へ出
ました。それからあの猫
の来た時のようにまるで
怒った象のような勢いで
トラ狩りをひきました。
聴衆はシーンとなって一
生懸命聞いているではありま

せんか。ゴーシュはどんどんひきました。猫がせつながってパチパチ火花を出したところも過ぎました。扉へ体を何べんもぶつけたところも過ぎました。曲が終るとゴーシュはもうみんなの方などは見もせず、ちょうどその猫のようにすばやくセ口をもって楽屋へ逃げこみました。すると楽屋では楽長をはじめ仲間がみ

んな火事にでもあったあ
とのように目をじっとし
てひっそりと座り込んで
います。ゴーシュはやぶ
れかぶれだと思って、み
んなの間をさっさと歩い
て行って向こうの長イス
へどっかりと体をおろし
て足を組んで座りました
するとみんなが一度に顔
をこっちへ向けてゴーシ
ュを見ましたがやはりま
じめでべつに笑っている

ようでもありませんでした。「今夜はやけに変な晩だなあ。」ゴーシュは思いました。ところが楽長は立って言いました。「ゴーシュ君、よかったぞ。あんなに短い曲だけれど、とてもよかった。」